

**製品名: Daxx ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09795**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	85-115kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DAXX
別名	DAXX; BING2; DAP6; Death domain-associated protein 6; Daxx; hDaxx; ETS1-associated protein 1; EAP1; Fas death domain-associated protein
遺伝子 ID	1616.0
SwissProt ID	Q9UER7
免疫原	抗血清はヒト DAXX 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 361-410

**背景**

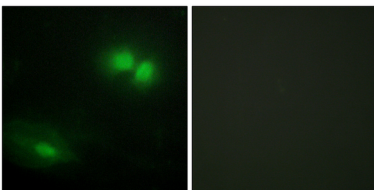
この遺伝子は、核および細胞質の複数の部位に存在する多機能タンパク質をコードしています。アポトーシス抗原 Fas、セントロメア

タンパク質 C、転写因子赤芽球症ウイルス E26 癌遺伝子ホモログ 1 など、多様なタンパク質と相互作用します。核内では、コードされているタンパク質は、SUMO 化された転写因子に結合する強力な転写抑制因子として機能します。このタンパク質を前骨髄球性白血病の核小体または核小体へ隔離することで、転写抑制が解除されます。このタンパク質は G2 期のセントロメアにも結合します。細胞質内では、コードされているタンパク質はアポトーシスを制御する機能を持つと考えられます。このタンパク質の細胞内局在と機能は、SUMO 化、リン酸化、ポリユビキチン化などの翻訳後修飾によって調節されます。選択的スプライシングにより、複数の転写産物に変異する。機能: TNFRSF6 および TGFBR2 からのシグナル伝達にตอบสนองして、MAP3K5 を介して JNK 経路の活性化とアポトーシスを媒介することが提案されている。HSPB1/HSP27 との相互作用は、TNFRSF6 および MAP3K5 との相互作用を阻害し、DAXX を介したアポトーシスを阻害する可能性がある。対照的に、リンパ球細胞では、JNK の活性化と TNFRSF6 を介したアポトーシスに DAXX は関与しない可能性がある。PML と共に PML/POD/ND10 核体における転写を制御し、それによって TNFRSF6 依存性アポトーシスに影響を与える可能性がある。基礎転写および活性化転写をダウンレギュレーションする。転写コリプレッサーとして作用し、直接的なタンパク質間相互作用を介して PAX3 および ETS1 を阻害すると思われる。PAX5 活性を調節する。その転写抑制活性は、それぞれ MCSR1 および PML との相互作用を介して、核小体や PML/POD/ND10 核小体などの核内区画にリクルートされることによって調整されます。誘導:コンカナバリン A による有糸分裂刺激により。PTM:おそらく ATM または ATR による DNA 損傷によりリン酸化されます。グルコース欠乏により HIPK1 によりリン酸化されます。PTM:ポリユビキチン化。CUL3 および SPOP によって促進され、プロテアソーム分解を引き起こします。PTM:SUMO 化されます。類似性:DAXX ファミリーに属します。細胞内局在:核質全体、PML/POD/ND10 核小体、および核小体に分散しています。間期セントロメアのサブセットと共存しますが、有糸分裂セントロメアには存在しません。細胞質の点状構造で検出されます。グルコース欠乏または酸化ストレスにより核から細胞質へ移行する。サブユニット:ホモマルチマー。C 末端を介して TNFRSF6 デスドメイン および PAX5 に結合します。SLC2A4/GLUT4、MAP3K5、TGFBR2、リン酸化二量体 HSPB1/HSP27、CENPC1、ETS1、SUMO 化された PML、UBE2I、および MCSR1 に結合します。PAX5 および CREBBP を含む複合体の一部です。N 末端を介して HIPK2 および HIPK3 と相互作用します。HIPK1 と相互作用し、PML/POD/ND10 核体からクロマチンへの移行を誘導し、HDAC1 との会合を強化します(類似性による)。非リン酸化型は、PAX3、PAX7、DEK、HDAC1、HDAC2、HDAC3、アセチル化ヒストン H4、およびヒストン H2A、H2B、H3、H4 に結合します。SPOP と相互作用します。DAXX、CUL3、SPOP からなる複合体の一部です。CBP と相互作用します。この相互作用は CBP の SUMO 化に依存し、HDAC2 のリクルートメントを介して CBP の転写活性を抑制します(類似性による)。HCMV テグメントリン酸化タンパク質 pp71 と相互作用します。組織特異性: 普遍的。

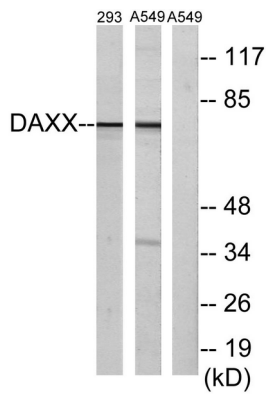
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;筋萎縮性側索硬化症 (ALS);

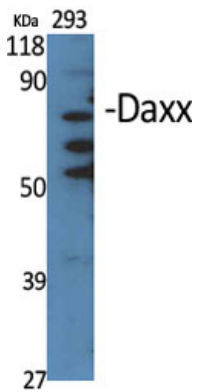
## 画像データ



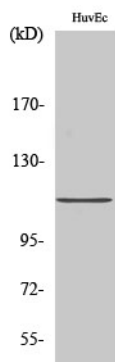
DAXX 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



DAXX 抗体を用いた 293 細胞および A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。  
右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Daxx ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



Daxx ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析